



会場選定の悩み

先日、所謂グループ研究の班会議を主催した。2泊3日の研究合宿である。発表スケジュールを組むだけならまだしも、貸切バスの手配から部屋割り、食事のメニュー、懇親会の準備など、総勢120人の面倒を見るのである。相方の先生や旅行代理店の方のおかげで何とかだったが、このようなイベント系の仕事は初めての経験で、帰りのバスでみなさんがお帰りになった瞬間倒れそうになった。精も根も尽き果てるとはまさにこのことか、としみじみ思ったものである。とはいえ、個々の発表のレベルが非常に高く、ポスターセッションも含めて活発な議論が展開され、グループ研究の醍醐味を感じることができた。さらに合宿形式ならではの研究討議会も夜遅くまで行われ、普段なかなか話しかけられない先生方とも色々とお話できて楽しく過ごせた。貸切バスが遅延したり体調を崩した方が出たりと多少のアクシデントはあったものの、概ね無事に会議を終えることができ安堵した。と同時に、これまで班会議を主催して頂いた先生方に改めて感謝したく思った次第である。

さて、このコラムにおける主題はこのような研究会の会場選定である。先輩方にお聞きしたところ、会場は基本的にどこでも良いが、温泉（大浴場）があること、研究討議会（親睦会も兼ねる）が夜中の3時頃まで可能なことの二つが条件であった。もちろん、会場は十分な設備が必要であり、コストを可能な限り抑えることが大前提である。改めて考えてみると、大学院生の頃からこのような班会議に参加しているが、ほぼ毎回この条件を満たしている。つまり、地方の温泉リゾートホテルが会場であり、そして閑散期に開催される。地方観光地のホテルからすれば、閑散期の団体宿泊はやはり大歓迎で、宿泊費だけでなく施設の使用費も交渉次第でかなりお安くなる。さて、問題は二つ目

の条件、深夜まで使える部屋の確保である。ポスタープレゼンが夜22時頃に終わり、それから親睦会が始まるので、ホテル側が提示してくる午前0時までに終了というのはほぼ不可能である。旅行代理店の方と根気強く様々に交渉することで、何とか条件に合う会場を見つけることができた（述べ時間と労力は論文執筆2報分に相当したと思う）。

それはさておき、このような地方リゾートでの研究会議は一般の方の理解を得られるのだろうか。何でも最近、「今、XXXの会議で温泉に来ています」とtwitterなどのSNSに投稿する学生さんや、研究室のHPに「YYY温泉に行ってきました」と深夜の飲み会（あっ、言ってしまった）の写真を掲載する例があるらしく、文科省に注意されているらしい。以前の大らかな時代ならまだしも、昨今の捏造問題でアカデミック研究者に対する世間の目は非常に厳しくなっている。完全に季節外れで、外を散歩する時間もないほどタイトなスケジュールで、懇親会費は自費ではあるが、週刊誌のように一部だけを切り取ったら、「税金」で「地方リゾート」に「旅行」にしか見えない。誤解を避けるためにも、やはりSNSやWEBでは紹介しない方が無難であろう。最後に何故、そもそも地方観光地が会場候補なのだろうか考察してみたい。これは温泉好きな大御所のご所望なのだろうか、それとも経費節約の結果なのだろうか（首都圏で会場付きでお安めのホテルは本当にないのです）？ いや、それだけでは無いだろう。研究者は異空間に身をおいて何かを考えるのが本能的に好きなのではないだろうか。余程のことが無ければ（家族の希望やくじで当たったなど）研究者が良い季節に観光地に行くことは余りないように思う。逆に言えば、自分が積極的に選択しない空間に身を置き、さらにたくさんの研究者が集まって話をする、という状況は物凄く五感が刺激されるのだろう。例えそれが季節外れであったとしてもあまり関係ないように思う。今回の会議の感想を聞いてみたところ、エクスカッションの時間が全くなかったにも関わらず、余り不満の声は聞こえて来なかったのである。移動の際に海が見えるとか、魚が美味しいというので満足らしい。書いていて少し切なくなってきた。

(Y)